

Aグループ グループワーク

1. 事例

認知症があり、手術当日に手術室で「手術するなんて聞いていない」と発言されたAさん。

2. 気になるところ・もやもやしたところ

- ・家族は手術に同意したが、ストーマを造設することや今後の管理についても理解していたのか。施設がどこまで介入してくれるのか把握したうえでの手術同意なのか。
- ・本人は手術に対してどう理解しているのか。本当に理解しているのか。
(術前に本人の意思決定がされていないのではないか)
- ・看護師、医師主体でことが進んでいないか。
- ・環境の変化で認知症の症状が進んでいるのでは。(医療者の対応により)患者の心が閉ざされているのではないか。

3. 「登場人物の気持ちの推量」(推量：相手の心中をおしはかること)

患者	家族
<ul style="list-style-type: none">・手術することがわかっていない・混乱して自分の気持ちがわからない・不安・(術前訪問時の発言から)手術を受け入れていない、もしくは手術を受け入れようとしている？・手術が怖い	<ul style="list-style-type: none">・病気を治すために手術をしてほしい。・長生きして欲しい。・健康でいて欲しい。・術後の合併症までイメージが湧いていない？
看護師	医師
<p>【術前】</p> <ul style="list-style-type: none">・理解できていないようだし、報告し相談したほうがよい。・手術の説明をもう一度すべきかな。 <p>【入室時】</p> <ul style="list-style-type: none">・やっぱり理解できていないな。(術前に)自分をもっと介入できたかも。・同意書もとっているし、認知症もあるから・・・。	<ul style="list-style-type: none">・同意書も貰っているし、手術を早くやってしまいたい。・認知症のため、本人には理解できないと思っているのでは。

4. 倫理的問題と課題

倫理的問題	その問題に対しどう行動すればよかったか
• 本人の意思決定、意思が尊重されていない	• 時間をかけて、話し方を変えれば、本人の意思決定に繋げていけたのではないか。 • 家族から、認知症になる前の本人の価値観を知るための話が聞けたらよかった。 • ICの前に、本人の理解の程度を明らかにしたうえで、チームで共有したらよかった。 • 患者に対しての声掛けの仕方を考慮する（威圧的にならない、など） • 入室時には、現在の状況について患者の理解を得られるように説明をすることが必要であった。

コメント

今回の研修に参加していただき、また活発なグループワークをありがとうございました。メンバーの皆さんの意見から、患者にとっての最善のためにどうするべきか、様々な視点から考えることができた、有意義なグループワークだったと感じています。皆さんの意見を伺って「なるほど、そういう考えもあるのか」と思いました。

「患者のために」という気持ちは一緒でも、私たち看護師どうしてもそれぞれの考え方は異なります。患者や家族の気持ちを推量しても、それぞれに違う感じ方があることを感じて頂けたかと思えます。

だからこそ、倫理カンファレンスを通して、様々な視点から「患者にとっての最善」を考えることが大切なのだと思います。

今回の勉強会での学びを、皆さんの今後の実践でも活かして頂けたら幸いです。

担当：中村